

愛媛県立西条高等学校 全日制 1 学期始業式式辞

皆さん、おはようございます。校長の山下和宏です。実は、私は今まで西条高校を訪れたことがありませんでした。初めて見る大手門の迫力には、本当に圧倒されました。このように歴史と伝統のある西条高校で勤務できることをとても嬉しく思います。そして、これから皆さんと過ごす一年間が充実した楽しい一年であることを願っています。

新学期を迎えるにあたり、皆さんに詩をひとつ紹介したいと思います。金子みすゞさんの「不思議」という詩です。

「わたしは不思議でたまらない、黒い雲からふる雨が、銀に光っていることが。私は不思議でたまらない、青いクワの葉食べている、かいこが白くなることが。わたしは不思議でたまらない、だれもいじらぬ夕顔が、一人でパラリと開くのが。わたしは不思議でたまらない、誰に聞いても笑ってて、あたりまえだということが。」

私たちの日常生活の中では、それが「あたりまえ」だからという理由で、思考停止をしていることがとても多いのではないのでしょうか。家族にお弁当を作ってもらうのは「あたりまえ」、自分が英語が苦手なのは「あたりまえ」、日本が戦争をしないのは「あたりまえ」。でも、それは、本当に「あたりまえ」なのでしょう。皆さんのこれからの新しい一年は、自分についても、友だちについても、どんなことでも、今まで「あたりまえ」だと思っていたことを、もう一度考え直す一年にしてほしいと、私は思っています。そして、皆さんには、是非、自分自身の中で眠っている、自分でも気づいていない「あたりまえでない資質・能力」を見つけ出してほしいのです。そのために、校長の私から、とっておきの三つの心を伝授したいと思います。

一つ目は「学び合う心」です。今、正解のない問いに対して、みんなで協力して、みんなが納得できる答えを見つけ出す力が求められています。友人とともに学び合って新しい時代にふさわしい学力を身につけてほしいと思います。

二つ目は「支え合う心」です。人は自分一人の力で生きるとは難しいものです。互いを認め合い、互いを思いやり、互いを尊敬しあえる友の力が必要です。心を通じ合える真の友人関係を育んでください。

「人それぞれに花あり」という言葉があります。大きくなくてもいい、自分だけの美しい花を高校時代にたくさん咲かせてください。

三つ目は「高め合う心」です。「昨日歩いたこの道、今日歩くこの道、明日歩くだらうこの道。同じだけど違っている。そういうことに気づく人になりたい」という言葉があります。私はこの言葉を、昨日よりは今日、今日よりは明日、自分自身が少しだけ高いところに進もう、そうすれば違った視点で物事を見ることができると、という意味で捉えています。仲間とともに、先生とともに夢を語り合い、目標を定め、一生懸命努力して、毎日、一步前進できるような高校生活を送ってください。

新学期です。「学び合う心」「支え合う心」「高め合う心」という三つの心を忘れずに、新しい目標を立て、いろいろなことに挑戦して、皆さんが自らの力で大きく成長することを期待します。

今日の午後には、入学式が行われ、新入生を迎え入れます。皆さんは、よき先輩として新入生を導きながら、西条高校に多くの花を咲かせていきましょう。

このことをお願いして、始業式のあいさつとします。